

和文書

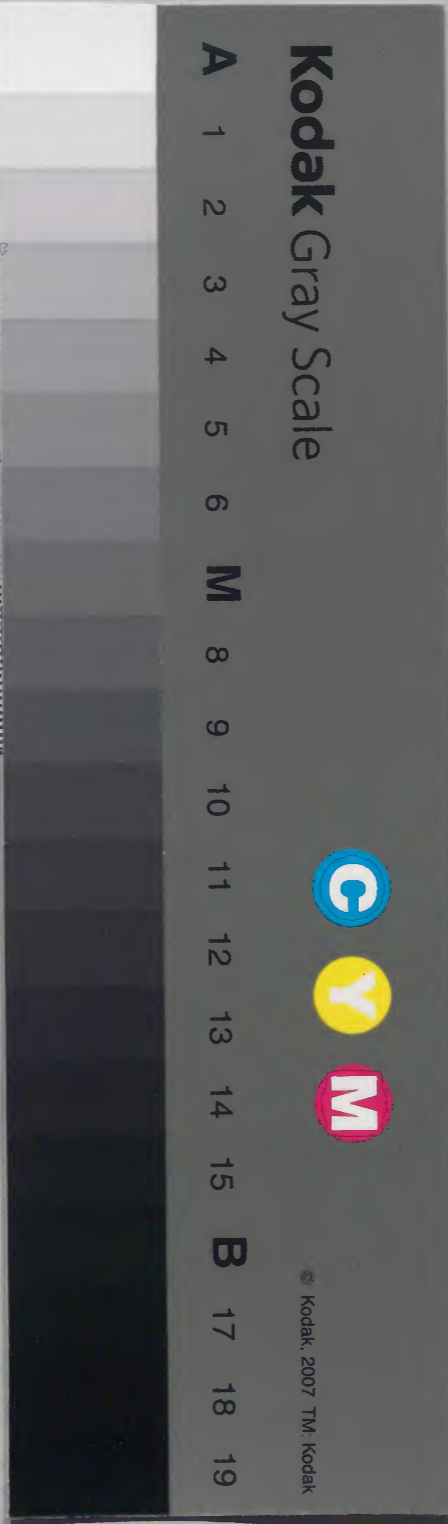
上

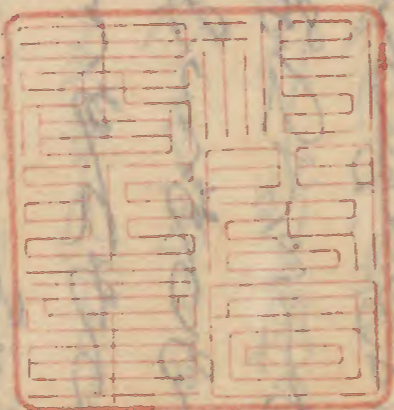
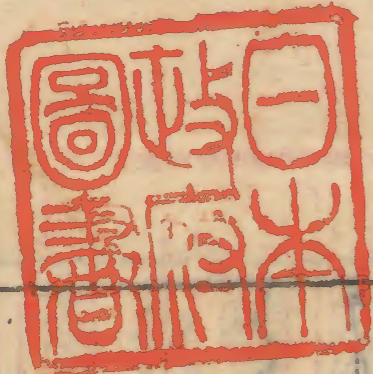
57

内閣文庫	
番號	和 32500
冊數	2 ( 1 )
函號	特 27 15

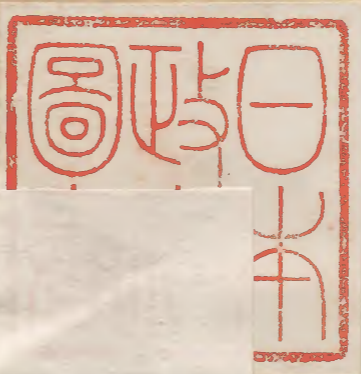
2523 特別  
和書  
三卷二十七番  
共二〇〇番  
二

特 27-15





Handwritten text in cursive script (草書) filling the central area of the left page, enclosed within a faint rectangular border.





身子院乃みうとら海ありぬ路ひありとひら  
 のぬ波敷乃ふへい珠乃子のつひり  
 とうりまてわひとらぬぬのあま  
 見と珠とものあつて  
 とわりけきみとらんとそのあつて  
 かわつて色とすひけ  
 力ひらつてわららり  
 ゆきめらりてあつてん  
 とかんわりけ  
 みとありぬまひと又のそつ秋のあつ  
 路ひととらつておとにたすひてあつて  
 たりぬあのをせうあつてらつてあつて

人因りありぬけ海ありぬ路ひありとひら  
 ありつたぬ波敷とぬぬのあま  
 ぬぬとまてわひとらぬぬのあま  
 こまかんともまかんともあつてん  
 ありとあつてわららり  
 物中將こまかんともあつてん  
 たりとあつてひつとわひとらぬぬのあま  
 ありとひつとわひとらぬぬのあま  
 ありとわららり  
 とあつてんともあつてんともあつてん  
 ありとわららりともあつてんともあつてん  
 ありとわららりともあつてんともあつてん

しつひひんまきしつひん

とわりけりしつひんまきかたてえふ海とありし  
ありそのあじかん寛運大とくしつひんまき  
さあひかり

故源大朝之宰相ありけり時常極のこゝろ  
とてり身子院の四葉のこゝろけり新とく  
けりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
えしつひんまきとあふけりしつひんまき  
ちしつひんまきとあふけりしつひんまき  
あひかりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
そあふかりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
けりそのあじかん九月のこゝろけりしつひんまき

しつひんまきとあふけりしつひんまき  
けりそのあじかん九月のこゝろけりしつひんまき  
あひかりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
そあふかりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
けりそのあじかん九月のこゝろけりしつひんまき

しつひんまきとあふけりしつひんまき  
けりそのあじかん九月のこゝろけりしつひんまき  
あひかりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
そあふかりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
けりそのあじかん九月のこゝろけりしつひんまき

しつひんまきとあふけりしつひんまき  
けりそのあじかん九月のこゝろけりしつひんまき  
あひかりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
そあふかりしつひんまきとあふけりしつひんまき  
けりそのあじかん九月のこゝろけりしつひんまき

わづらふはゆふあまのむすねはふかおわりけりおきて

お細かひらのちちをくの時もあ

とまかかん座りなすうりてあひまひあひまへ

のらまへせんころけり

昔夫氣すこもるしうゑのほろの住りしあけり  
てかおあまのころけりあああひあひあはけりま  
まては後りもあまのころけりあああひあひあはけり  
まのころけりあまのころけりあああひあひあはけり  
まのころけりあまのころけりあああひあひあはけり  
まのころけりあまのころけりあああひあひあはけり

ふ患のころけりあまのころけりあああひあひあはけり  
あうてあひあひあまのころけりあああひあひあはけり  
て月日あひあまのころけりあああひあひあはけり

えまのころけりあまのころけりあああひあひあはけり

あひあひあまのころけりあああひあひあはけり

こまのころけりあまのころけりあああひあひあはけり  
あ後あまのころけりあああひあひあはけり  
あひあひあまのころけりあああひあひあはけり

あああひあひあはけりあああひあひあはけり  
あああひあひあはけりあああひあひあはけり  
あああひあひあはけりあああひあひあはけり  
あああひあひあはけりあああひあひあはけり

まじあはるたふるしあかあはるあて

こころあはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

まじあはるたふるしあかあはるあて

こころあはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

まじあはるたふるしあかあはるあて  
あはるあかあはるあて

こころあはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

まじあはるたふるしあかあはるあて

こころあはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

あはるあかあはるあて

一、新宮よりけつぶつこの院よりけつふへかみひ  
うへにけつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
あつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
かみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ

一、新宮よりけつぶつこの院よりけつふへかみひ  
うへにけつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
あつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
かみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ  
けつふへかみひの御ありけつふへかみひ

かしわりのけしきもふりまはしたるはほおのしとふあひん  
 すまのひのまをふりまはしたるはほおのしとふあひん  
 すまのひのまをふりまはしたるはほおのしとふあひん  
 とわりのけしきもふりまはしたるはほおのしとふあひん

とわりのけしきもふりまはしたるはほおのしとふあひん  
 とわりのけしきもふりまはしたるはほおのしとふあひん

とわりのけしきもふりまはしたるはほおのしとふあひん  
 とわりのけしきもふりまはしたるはほおのしとふあひん  
 とわりのけしきもふりまはしたるはほおのしとふあひん  
 とわりのけしきもふりまはしたるはほおのしとふあひん

ゆめむらさきとふらぎのこゝろみ舞

じまのせうが東乃らぬとふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞  
 とふらぎのこゝろみ舞とふらぎのこゝろみ舞



あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと  
なしくあはれみとあはれみとあはれみと

平院乃小方の西のつらねとあはれみとあはれみと  
とふあはれみとあはれみとあはれみとあはれみと  
あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと  
つらねと

わらわのつらねとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみと

つらねとあはれみとあはれみとあはれみと  
あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと  
あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと  
あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと  
あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

111

とらねとあはれみとあはれみとあはれみと  
あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

あはれみとあはれみとあはれみとあはれみと

たのこめてえ終りありけり  
てらの子遊

たのこめてえ終りありけり  
たのこめてえ終りありけり

たのこめてえ終りありけり  
たのこめてえ終りありけり

たのこめてえ終りありけり  
たのこめてえ終りありけり

たのこめてえ終りありけり  
たのこめてえ終りありけり

たのこめてえ終りありけり  
たのこめてえ終りありけり

すうおのころのころのころ  
とわりきれんや

すうおのころのころのころ  
とわりきれんや

すうおのころのころのころ  
とわりきれんや

すうおのころのころのころ  
とわりきれんや

すうおのころのころのころ  
とわりきれんや

すうおのころのころのころ  
とわりきれんや

かた女のまじり

しう宛のよりがーに事老ぬとせ

まじりつゝおつひさわかん

也ー

かーのまのりりかーに事老のうふ

つゆめひのゆーまきめり

とせんつひさり

良おおあらの総一とらとせとりのまのり監

命ぬかんもちりしおわりとつひさりかー

うらりけい

わさつはあめつりーまのうまは

つゆめひとらとつゆめひ

とらりけい監事ぬけつらりてりてり  
て厚りあり

陽成院の二乃みと後蔭の中おつむひあふ年

てらつと新舞がと女み乃かてとえはりぬく

後うふとひあつらつらつらつらつら

とあめりともひはしてつとわらあつとあつら

つらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつら

くかん

しらあゝりたしとたぬひし山あの  
なまのぬくういあんとせん

先帝此山府よおた良友の女所ふくのつれり  
まのわり新くまひ新なりありしゆしゆ  
ゆきまら新ひくうありしゆしゆ

とめとれしそいあんとせん  
とめとれしそいあんとせん  
とめとれしそいあんとせん

ひえのうらゝ今くはあゝりしゆしゆ  
わりけうしゆしゆあゝりしゆしゆ  
のまゝしゆしゆおたのまゝしゆしゆ  
しゆ

111

あゝりたしとたぬひし山あの  
なまのぬくういあんとせん

しらあゝりたしとたぬひし山あの  
なまのぬくういあんとせん  
先帝此山府よおた良友の女所ふくのつれり  
まのわり新くまひ新なりありしゆしゆ  
ゆきまら新ひくうありしゆしゆ

とめとれしそいあんとせん  
とめとれしそいあんとせん  
とめとれしそいあんとせん

とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら

111

とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら  
とあつたがらんむらりてあひくらうらうらうら

とほ色とり帯なり

おち兼のうゝ宗平の君ありのうゝ宗平の君ありの  
えありのうゝねのうゝ宗平の君ありのうゝ宗平の  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありのうゝ宗平の  
たりのうゝ宗平の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの

おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの

おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの

おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの

又

わがまにふひとむわうくむうう  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの

おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの

おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの

おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの  
おとよ紀伊の君ありのうゝ宗平の君ありの

右条のころのむすい女

心あはれとておぼれしはききよきまをみえ

うたへしはききよきまをみえ

堤乃中納言を因乃中使おく大目山ノ院の丹

とありよひおきりけり地をれそけりお

しよひのききり言れおききききききき

いとおれりけりおききききききき

あしききききききききききき

おれりけりおききききききき

伴珠乃因よあききききききき

つよの中おれりおききききききき

おききききききききききき

こききききききききききき

いせしはききききききききききき

のききききききききききき

りりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり

くききききききききききき

おききききききききききき

光帝の又乃みこのおむすめの一葉の君とひき

あ極のひききききききききききき

わぬききききききききききき

ておききききききききききき

おききききききききききき





おしり乃り新をゆ

ひびくををなをぬきしとくはあ

わがまをいふくきりみしは

とら新をぬきしとくをいせくあわりそ

うもやんかたをわいりけりのをまおん

をわりけり

あまうとあまのわき乃西強者此うまわり

けりけりうきを中いそよまのけりけり

あまのあまをぬきしとくをいせくあ

うもやんかたをわいりけりのをまおん

とあまのけりけりけりけりけり

あまのあまをぬきしとくをいせくあ

かひのけりけりけりけり

あまのあまをぬきしとくをいせくあ

むきけりけりけりけりけり

あまのあまをぬきしとくをいせくあ

わがまをいふくきりみしは

あまのあまをぬきしとくをいせくあ

とら新をぬきしとくをいせくあ

うもやんかたをわいりけりのをまおん

をわりけり

あまのあまをぬきしとくをいせくあ

わがまをいふくきりみしは

あまのあまをぬきしとくをいせくあ

おあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 くわらさるゝつららにけり  
 うかりゆへにせのめは井の藤さるゝ  
 日や地へあらあらあそわりのけり  
 まゝひんむまにけりてはさるゝあそわりのけり  
 うららゝつららにけり  
 おあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 わあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 けりとの世純き若十のみのあそむ所息あそむ  
 ちりのけりてはさるゝあそわりのけり  
 うららゝつららにけりてはさるゝあそわりのけり  
 うららゝつららにけりてはさるゝあそわりのけり

ひのあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 おあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 光者よとまのあそむ所息あそむ  
 おあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 平中かんわんの子のあそむ所息あそむ  
 おあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 うちかひらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 ついでにうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 おあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 おあしんうらむまはくしんはむらとまのしんおのりい  
 湯成院乃一葉のまに

あつしきまふころくふまふくたつひり  
ありきりあらのつらむかま  
先帝此刑可成さこくさあひ新なる更  
新のさこくゆりこくあひくひくさあり  
行のさあふまふひり  
おひさしきまふまふまふまふ  
らまひのうまひのさひり  
おひさしきまふ院乃みうゆりこくさあひ  
ゆさそみぬらのさあひおひさしき  
はまひさしきゆりこくまひのさ  
院乃ゆり  
まひさしきありさひりまひあひ

ふせんおりのわり  
くまひさしきまふまふまふ  
院乃ゆり  
おひさしきまふまふまふまふ  
ひりこくまひまひまひ  
ゆりこくまひまひまひ  
まひまひまひまひまひ  
まひまひまひまひまひ

うみからまゐるのへそをわりのけ

陽成院はわりのけの波よとみりともよむおあ

かんふおけの女さうのゆわりのそをわらりさむ

わりのけのうららちあまのうらら

あまのうららちあまのうらら

おあめいむおあめいむのうららちあまのうらら

くわいよとあまのうららちあまのうらら

まほわのむんたゆんそくのあまのうらら

ておひさうらちあまのうららちあまのうらら

あまのうららちあまのうらら

あまのうららちあまのうらら

男のけりあまのうららちあまのうらら

うららちあまのうららちあまのうらら

うららちあまのうららちあまのうらら

うららちあまのうららちあまのうらら

とがんひひけ。

顔が指ちのひひけ無勝のそみりあまのうらら

うららちあまのうららちあまのうらら

うららちあまのうららちあまのうらら

うららちあまのうららちあまのうらら

女ぬー

うららちあまのうららちあまのうらら

うららちあまのうららちあまのうらら

とが介平中真むすあまのうららちあまのうらら

よわあてぬてほろくちあきてんのおまはらあに  
あまほのよわあてぬてうのひりう徳をよをせり  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて

よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて

よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて  
よらうあの人あまはらあてぬて



世の中はわが世のあつたなりぬらん

このあつたなりぬらん家とこそはんす

とわりあつたなりぬらん限なくわが世のあつたなりぬらん  
たつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん  
あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん  
あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん  
あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん  
あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん  
あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらん

あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん  
あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん  
あつたなりぬらんあつたなりぬらんあつたなりぬらん





いかにんしるりあしとわけぬるしんま  
とかんくひくわりのけのわあまのあらまひ  
のよはぶふふ海とみひてのそたくとんまひの  
そなくそひけりあまはかんあまひと  
うしちたぬとまらけのあまひと  
ゆよまのそあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと

いひのわめりのあまひとあまひと  
枇杷敷りうしとあまひとあまひと  
うなりのあまひとあまひと  
まらあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと

あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと  
あまひとあまひとあまひと



のまじりおがんでけしきくまの中納まのうま新  
えんおひけしすのけくのひまきん  
ひとろりひひうかりけ  
三葉のちかきうの海  
あきろりまおらりうせり  
まじりわびさきひとのうさうた  
おあまありまうけり府事お院ますしひを  
まじりましひまておあまありまうけりわ  
えのまじりわてまじりまてあひくこのりまの院と  
んおおとわあまあり院のまじりまうけりわ  
まかりけしひらきり

しげあがひあまうけりまうけりまうけり

とせり

おあまありまうけりまうけりまうけり  
ひとろりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん  
えんおひけしすのけくのひまきん  
ひとろりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん

まじりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん

まじりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん  
まじりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん  
まじりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん

まじりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん  
まじりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん  
まじりまのうま新えんおひけしすのけくのひまきん

くのかたきくもいづくさりけりおるも新しき  
秋中がらん

ふさくゆいりかたの秋あはれ

ゆいのみまおくわさかちのん

とがんとあひま

榎の尾ののりしけりけりけりけりけり  
息ふさくけりけりけりけりけりけり  
秋あちろくひさくろくろくろくろく  
のをあちろくひさくろく

こころのなみさくろくろくろくろく  
かたきくろくろくろくろくろく  
こころのなみさくろくろくろく

かたきくろくろくろくろくろく

かたきくろくろくろくろくろく

あつてあひのくわし新あはれお院り六月十  
み秋せしまけりおあちろくろくろくろく  
りおんあちろくろくろくろくろくろく  
り新あちろくろくろくろくろくろく  
えろくろくろくろくろくろくろく

あつてあひのくわし新あはれお院り六月十

監令ぬお新乃威儀の令あちろくろくろく  
強兵のみと見なすひてあちろくろくろく  
ひかちろくろくろくろくろくろく



村歩のくさみ行人ありたり野原のけしきえな上  
おほいおほいりぬの物うねるうきりあてみあつ  
うらららとりあがりけりあてあつてぬゆりあつた  
ありとひきふゆとて

おきんあわてとありぬゆりあつた

まはりのあつてあらぬあつた

とあつたらひきぬあつたとしてあつた新  
おきり おきり女おとこあつたあつたあつたのゆ  
きけとちりひきとあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

のきみかんすも竹あつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

うちへうりてうらみおほしき  
 とがんまふ  
 けいけいのおとこはひもくしうのこがりけいけい  
 としうのまふあつたつたあこしあまきうの  
 かりんまふおのこけいけいけいけいけい  
 おのこまふおのこまふおのこまふ  
 けいけいのおとこけいけいけいけい  
 としうのまふ  
 けいけいのおとこけいけいけいけい  
 とあんなりせん  
 おのこおのこけいけいけいけいけい

うらみおほしき  
 とがんまふ  
 けいけいのおとこはひもくしうのこがりけいけい  
 としうのまふあつたつたあこしあまきうの  
 かりんまふおのこけいけいけいけいけい  
 おのこまふおのこまふおのこまふ  
 けいけいのおとこけいけいけいけい  
 としうのまふ  
 けいけいのおとこけいけいけいけい  
 とあんなりせん  
 おのこおのこけいけいけいけいけい





乃くはてはわらうせんふもは乃  
ひいあひまらわあひしと  
三葉のたのむ中おふゆとりけし時糸の使  
るあまきこりてたらし新なりかひ新き心女  
乃たしそふとかりおけふとゆふせんそ  
乃のわあひつこゆつりけりさうしとせか  
まゆふさひひのあまひゆりきりさう  
わのあかりさゆりさしとせとあひあひけり  
おろかりさゆりさしとせとあひあひけり  
いさうりさしとせとあひあひけり  
のらあひさふたあひけり  
梅こしとせとあひあひけり

乃くはてはわらうせんふもは乃  
とわらうせんふもは乃  
梅こしとせとあひあひけり  
乃のわあひつこゆつりけりさうしとせか  
まゆふさひひのあまひゆりきりさう  
わのあかりさゆりさしとせとあひあひけり  
おろかりさゆりさしとせとあひあひけり  
いさうりさしとせとあひあひけり  
のらあひさふたあひけり  
梅こしとせとあひあひけり

るあまふりしなまじふあひとあつし  
たぬぬあひひとのうらわたりなり

乞すおあし中納言秋実乃みこと年比ふあひに  
てまりり給へそあひわひあんうらなふれおひせ  
乃秋実の四うらあひあひおよりあひわく  
口おしおとあひあせりそを傍く在給ひなる  
伴頼のうらふらうのほゆあひらうら

とあんわりけり

故中務文のふあせ給て後あらゝれえんあ  
しうらうらう三葉天女良ぬおすすし給りあのみ  
たしけりうらうはは井おひきりおすくし給

りりけりあのみお方乃おあきしりお九君と殿うらひ  
まんとあしうらうなあそあそとあわらうら  
とおしなりあしうらうらわらん九葉天女のそ  
ゆ後ののし給はほはあそええとあんうら  
うらうらあつああしとあしうらうらのえおり  
たり新おけりあしあしあしあしあしあし  
あはんのすまりあしあしあしあしあし  
うらうらあしあしあしあしあしあし  
あのおし

すうらおとおようらうらうらうらうら  
うらわらうらうらうらうらうらうら  
とあんわりけり

おあーちのおあよのこもほとこりみしおあーち  
ほありて後武のまきんすもほとこり新あり  
つゝあさんありゆきかほけのほ新あまのほりこり  
あそまありなまありけふあまほりまこりあまのあ  
まあまのあまこりあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあま

とかんありけりあまあまあまあまあまあま  
丸の君のあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま

かまのあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあまあまあま

このがしとあはしくいふにまふまふりなほあ  
院の西せうえこのやとらけりてく父あ  
さしゆりなすしめてゆえに浪行せぬ  
ぬきとのそりおしとあひりながれん乃  
このみのりあたまこもわりの章り  
とせんがまは新ぬきゆきのり中并あめん  
ト新なるまは子のみしとあはしくいふに  
井おほくまはりのまふまふりおまはりく  
のりあひりりりけりてく父あはしくい  
わあまひとあはしくいふにわあまひり  
あはしくいふにわあまひりあはしくい  
井てすく

上巻四

とくくまはりのりあはしくいふに  
あまひとあはしくいふに  
とせんあはしくいふに  
わあまひとあはしくいふに  
あまひとあはしくいふに  
らりあはしくいふに  
あまひとあはしくいふに  
とわりのりあはしくいふに

あしてかんらんしり

あつたおのりまひおひとくさうらうひくす  
とほりて内まらりたりたりとらひおのりまひのま  
掃部助やく秀人ありけるありありありあり  
のすけおわのくみおらうとらりらららららら  
たりらららららららららららららららららら  
かんらららららららららららららららららら  
そくわさそららららららららららららららら  
あひまそらららららららららららららららら  
りあそららららららららららららららららら  
くや  
そあそらららららららららららららららら

とのぬたなりかとわさまらして殿とらららら  
ひおまふらららららららららららららららら  
ひおまひおららららららららららららららら  
うひおまらららららららららららららららら  
ひまそららららららららららららららららら  
りおまそらららららららららららららららら  
ひそかおらららららららららららららららら  
さあまのくまらりてららららららららららら  
とららららららららららららららららららら  
たりらららららららららららららららららら  
ち佐きおわりけるありありありありありあり

まひしあきありてさへなりけり  
ゆゑのうらみおのの紙  
ちかきしやあのみちまき

平中うらみこのけりさなりお  
ちかきしやあのみちまき  
ゆゑのうらみおのの紙  
ちかきしやあのみちまき  
まひしあきありてさへなりけり  
ゆゑのうらみおのの紙  
ちかきしやあのみちまき

とらりけりまじりのまじり  
ゆゑのうらみおのの紙  
ちかきしやあのみちまき  
まひしあきありてさへなりけり  
ゆゑのうらみおのの紙  
ちかきしやあのみちまき

文にふもりの御事なぬるしとてかこぬるは  
くらあやあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
しとてかこぬるしとてかこぬるは  
ましとてかこぬるしとてかこぬるは  
もせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
もせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
こもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
ゆてこもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
てこもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
もせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
ぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
うもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは

おぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
りひあふるしとてかこぬるは  
そのあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
あひの御事なぬるしとてかこぬるは  
ゆてこもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
かこぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
あひの御事なぬるしとてかこぬるは  
ゆてこもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
あひの御事なぬるしとてかこぬるは  
ゆてこもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
あひの御事なぬるしとてかこぬるは  
ゆてこもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
あひの御事なぬるしとてかこぬるは  
ゆてこもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは  
あひの御事なぬるしとてかこぬるは  
ゆてこもせぬるはあひの御事なぬるしとてかこぬるは

めくわひしとあつんといふしつふふたふ  
 いたくかきあんのあつわりのあつふつい  
 たつあつとあつんとあつてあつあつあつ  
 びつとあつてあつてあつてあつてあつて  
 ふふあつてあつてあつてあつてあつて  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつ

とうたたりあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

うちあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ



申すにふらふらけしふらけしふらけしふらけし  
 びせしとてふらけしふらけしふらけしふらけし  
 けしとてふらけしふらけしふらけしふらけし  
 けしとてふらけしふらけしふらけしふらけし  
 ふらけしとてふらけしふらけしふらけし  
 ありのふらけしふらけし  
 ふらけしとてふらけしふらけしふらけし  
 ふらけしとてふらけしふらけしふらけし  
 申すのとてふらけしふらけしふらけしふらけし

申すにふらふらけしふらけしふらけしふらけし  
 びせしとてふらけしふらけしふらけしふらけし  
 けしとてふらけしふらけしふらけしふらけし  
 けしとてふらけしふらけしふらけしふらけし  
 ふらけしとてふらけしふらけしふらけし  
 ありのふらけしふらけし  
 ふらけしとてふらけしふらけしふらけし  
 ふらけしとてふらけしふらけしふらけし  
 申すのとてふらけしふらけしふらけしふらけし

男のりもてくつさねなりもおかしきつてわや  
 たりとね又都より西より東よりわや又都より  
 西より東よりわやとせりけり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり

うんたらのりもてくつさねなりもおかしきつてわや  
 たりとね又都より西より東よりわや又都より  
 西より東よりわやとせりけり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり  
 とうとうと男のりもてくつさねなり

くしてその女をくしめおのこめしけりてとわつて  
のこわりけりおみおきりしゆたけりけりおの  
つとわつておのこめしけり

うおしそつておのこめしけり

つりあしけりおのこめしけり

とのこめしけりておのこめしけりしけりけり  
とそりておのこめしけりおのこめしけり

おのこめしけりおのこめしけり

おのこめしけりおのこめしけり

とそりておのこめしけりおのこめしけり

おのこめしけりおのこめしけり

おのこめしけりおのこめしけり

とめれ又その女

つりあしけりおのこめしけり  
おのこめしけりおのこめしけり

おのこ

おのこめしけりおのこめしけり

おのこめしけりおのこめしけり

おのこめし

おのこめしけりおのこめしけり

おのこめしけりおのこめしけり

おのこ

おのこめしけりおのこめしけり

おのこめしけりおのこめしけり

おあーもよと女

わあまの御ふらりおありおきり

たあまーおれそらひーあ

南流の御とと云右弟のうむはゆまのこ  
このむすめありそれおれとあこら肉肉めん  
乃ここのあこふあひりそりそり共御弟の  
こまわ若とあしけつとれさうふあかくあ  
しかりおりたこ中御あまこあひのこも  
おれあそくかん

りそあお若うふーそあひの

御あまこあーとくくーおれん

とたんわりけり

おあー女おあまうーとらくーあひのちおるたり  
けまはなりたりーうああまとのひたり  
るりこり

まのりーとととーあまおん

うこりーああらうめりあひのち

おあー女ん

おあまうーあうりーああまおれ

あまのりーああまおれ

大膳のうこまんのひのむすめあまわこの弁  
あまあまそりああまのこあまのこ  
とあまのこあまのこあまのこあまのこ  
あまのこあまのこあまのこあまのこ

しやうりけりしやうりけりしやうりけり  
この世にうらなひとて願ふ所は  
あらざりしやうりけりしやうりけり  
と云ふなりけり  
おのゝ女はつれづれ無常の世なりけり  
と云ふなりけりしやうりけりしやうりけり  
らりしやうりけりしやうりけり  
わあゝ世あつてはあゝわあゝ  
と云ふなりけり  
ひやうあつてはあゝとての世はつれづれ  
おのゝ世にうらなひとて願ふ所は  
あらざりしやうりけりしやうりけり  
たりけりしやうりけりしやうりけり

むしゝあつてはあゝとての世はつれづれ  
わあゝ世あつてはあゝわあゝ  
くして無常の世なりけりしやうりけり  
わあゝ世あつてはあゝわあゝ  
ひやうあつてはあゝとての世はつれづれ  
と云ふなりけりしやうりけりしやうりけり  
わあゝ世あつてはあゝわあゝ  
まゝの世にうらなひとて願ふ所は  
あらざりしやうりけりしやうりけり  
わあゝ世あつてはあゝわあゝ  
あつてはあゝとての世はつれづれ  
らりしやうりけりしやうりけり  
の世にうらなひとて願ふ所は  
あらざりしやうりけりしやうりけり  
たりけりしやうりけりしやうりけり

いとそし候りなむらりし

袖よりさかきり申し候りたれども

わらぬまらぬおひらあけの御

ちのあとの影おありけり討おふ武のめれやの

しよふらそめひあや

わさうの影おまそとたのりしよのま

海やうの影おのらあけ

とせん

わさうとらひつゆとてしよのま

まうあおそりらりし

ふんひらもすあきぬとく

がりのとあけの影おのま

1010

そそりあみさうとあけ

松のみさうら

はゆりらあぬとあけ

ままの影おのま

用院のあけ

ししあわらわらうまの

まのまらうとあけ

おあ女おらちのいおのうとあけ

まらうよりあけをけりけりし

あけとあけあけありけり

あけとあけあけありけり

わあそあけあけありけり

とまりきつたおぼろの春

りちきつた伊よふおぼろくしその願ま

なまらふひよりいそめんふせり

とみありきりそそきりけつねとてわがま

まよひやわりせんをわらうりけしきつたおぼろ

まてわりたお田男のりこりひもこせりけつ

わらういゆおけつりひのよひとあふ

おぼろの春

おぼろの春

おぼろの春

おぼろの春

おぼろの春

枇杷乃おぼろの春ありおぼろの春ありけつねとてわがま  
おぼろの春ありおぼろの春ありけつねとてわがま

おぼろの春

おぼろの春

おぼろの春

おぼろの春

おぼろの春

おぼろの春

おとこの中親をうらむ所はなほ日なれひら  
うり物そけおわりありおせりうりけの時よ社後  
うかうりをゆのみふうん年ふりて  
せはとつわい物おひぬとらう  
藤原うのお武とみうらうのむすめのおとこ  
あえとけのひとよせとてと物おけ  
あくさのとあうり物そけうられ  
とらりおひぬ

らこの毒かたはのあさうあを所乃  
こらくののうとらうとてあけ  
やうふうおせうとらりけかふさうとて  
よけ神ありうりそれおひえおの院のた上

しするはしあかんあけつたれあそくはまうて  
けうは志おあまうてわひまうりうあお所  
わひとてわくあまのあひひらうとらり  
あまうてとけりあんと志うりそれなそうこのけり  
わひとてあまうりてこのおけりせぬ  
あけくあまおひかうとらう  
う

うあまてんあけくあまのいとおひん  
うあまてんあけくあまのいとおひん  
あけくあまてんあけくあまのいとおひん  
あけくあまてんあけくあまのいとおひん  
あけくあまてんあけくあまのいとおひん





かきしきりあひまゝのむしあわりのこと  
わたりあんなんひまるといふはあつた  
ひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
しらのむしあひまりのむしあひまりの  
むしあひまりのむしあひまりのむしあひまりの

むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの

むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの

むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの  
むすひまりのむしあひまりのむしあひまりの



第一 みるのの時 好む みる 月ののいづれ  
 なる 秋のわさびをむくわく 月とゆきをりや  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 みる みるのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき

三十一



大物器上段

あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき  
 あり ありのうき 雲のうき 雲のうき 雲のうき



芳名

Handwritten text in a rectangular box, likely a list or record, written in a cursive style.

